

何があれば「歩きたくなる」？

要素	内容	具体
何よりもまず、安心して歩けることが大前提です。		
安全性	広い歩道と適切な舗装	ベビーカーや車椅子の人も通行しやすい幅があり、段差が少ない、滑りにくい舗装。
	◎ 交通量の抑制と速度制限	生活道路では自動車の交通量を抑えたり、速度制限を設けたりして、歩行者との安全を確保。
	信号の最適化	歩行者がストレスなく渡れるように、信号の待ち時間を短縮したり、押しボタン式信号を増やしたり。
	◎ 街灯の整備	夜間でも安心して歩ける明るさの確保。
	防犯対策	死角が少なく、人通りがあることで、犯罪を抑止。安全でなければ、いくら魅力的でも歩く気にはなれません。
暑さや寒さ、雨風をしのげたり、疲れた時に休憩できたり。五感で感じる快適さも重要です。		
快適性	◎ 木陰と緑	並木道や街路樹、公園などが、夏の暑い日差しを和らげ、視覚的な癒しを提供。
	◎ ベンチや休憩スペース	歩き疲れた時に気軽に座れる場所があること。
	公共トイレの設置	清潔で利用しやすいトイレがあること。
	バリアフリー	段差解消やスロープ設置など、誰もが移動しやすい工夫。
	良好な空気質	排気ガスが少なく、きれいな空気を吸えること。快適であれば、自然と歩く距離も伸びます。
歩いている途中に「おっ！」と思うような発見があったり、心が弾んだりする要素です。		
楽しさ	◎ 魅力的な景観	歴史的な建物、美しい街並み、景色の良い場所など、歩いていて飽きない風景。
	多様な店舗や施設	カフェ、レストラン、個性的な雑貨店、本屋、ギャラリーなど、立ち寄りたくなるお店が点在。
	賑わいと活気	人通りが多く、活気があることで安心感が生まれ、気分も高揚。
	ストリートアートやパフォーマンス	壁画、オブジェ、音楽演奏など、街角のサプライズ。
	公園や広場	休憩だけでなく、イベントやアクティビティの場として、人々の憩いの場に。「何か面白そうなものがあるかも！」という期待感が、私たちを歩かせます。
目的地にスムーズにたどり着ける、様々な場所にアクセスしやすいという機能的な側面です。		
利便性	公共交通機関との連携	駅やバス停からのアクセスが良い、公共交通機関の乗り換えがしやすい。
	多様な施設が集積（ミックスユース）	住宅、オフィス、商業施設、公共施設などが近接しており、歩いて色々な用事を済ませられる。
	◎ 分かりやすい案内表示	地図や誘導サインが分かりやすく、迷いにくい。
	◎ 自転車や他の交通手段との共存	歩行者の安全を確保しつつ、自転車シェアや小さなモビリティなども適切に配置・利用できる。「歩けば色々なところへすぐ行ける！」という感覚が、歩くことを日常の選択肢にします。
人と人との偶然の出会いや、地域との繋がりを感じられる機会があることです。		
交流	人が滞留しやすいオープンスペース	広場、カフェのテラス席、公園のベンチなどで、人が自然と集まり、立ち話が生まれる空間。
	イベントの開催	マルシェ、フェスティバルなど、地域住民が集まるイベントが、街に活気と交流を生む。
	人間的なスケール	建物が大きすぎず、街路の幅が適切で、人々の顔が見える距離感。歩くことで、地域の一員であることを感じられ、新たな交流が生まれる可能性があります。

(参考ホームページ) <https://www.v-frontier.com/walkable-city-toha-himitsu/>

フロンティア技研「ウォーカブル・シティとは？歩きたくなる街の秘密を徹底解剖！【住む場所選びやまちづくりにも役立つ！】」ウォーカブル・シティを形作る要素：何があれば「歩きたくなる」？2025年9月8日時点